

山陽特殊製鋼株式会社  
2020年度第3四半期決算説明会（電話カンファレンス）  
主な質疑応答（要旨）

開催日 2021年1月29日（金）  
説明者 取締役常務執行役員 高橋 幸三

---

Q. 2021年度の当社単体業績の見方について教えていただきたい。説明資料(16ページ)では、2020年度4Qの経常利益見通し11億円に対し、鉄スクラップサーチャージのタイムラグが×19億円となっており、タイムラグ影響を除く実力損益は30億円、年率で120億円となるようにもみえるが、緊急収益改善対策による一時的な固定費減や原燃料価格下落によるプラス要因があるとの説明だった。来年度の業績を予想するうえで、どのように考えればよいか教えてほしい。

A. 2020年度4Qの単体損益見通しには、雇用調整助成金の受給や、残業・経費が少ない水準にあるなどの緊急収益改善対策の影響が入っているため、実力よりは高い損益と評価している。来年度の業績を考えるにあたっては、販売数量が一番のポイントであり、今年度より回復してくるが、数量が回復するとコストが上がる。鉄スクラップ、合金鉄や原油価格も上昇傾向であり、2019年度から実施してきた緊急収益改善対策を解除した場合のマイナス影響も考慮する必要がある。

Q. 半導体不足による自動車減産の影響はあるか。

A. 2020年度はほとんど影響ないとみている。あるとすれば、2021年度上期に少しマイナス影響が出る程度ではないか。自動車関連の在庫積み上げはほぼ終わったとみており、今後の販売数量は、実需によって変わってくると思う。

Q. Ovako、MSSSはどの程度の販売数量になれば黒字化がみえてくるのか。

A. 2020年度のOvakoの販売数量は、前年度比95千トン減少し、その数量減影響が-60億円程度。2021年度の販売数量が仮に2019年度並みになったとすると、2020年度比+60億円の数量増効果となる。Ovakoは二次加工製品が多く、商社機能も持っているため、限界利益単価が高く数量変動影響が大きい。一方で、スウェーデンの雇用調整助成金の終了、数量増に伴うシフト追加等の固定費増のマイナス影響が出てくる。MSSSは、2020年度4Qの販売数量(29千トン/Q)だと赤字のため少なくとも30千トン前半/Qは欲しい。両社のターゲットはOvakoはのれん償却額を上回る営業利益確保、MSSSは黒字化である。

Q. 鉄スクラップ価格が足元下がってきているが、損益への影響について教えてほしい。

A. 関西地区の鉄スクラップ価格も少し下がってきているが、関東地区ほどの急落ではない。関西地区での下落は、ある程度の幅に収まるとみており、先々は底堅いと考える。今年度は、残り2ヶ月しかないため損益への影響はあまりないと思っているが、来年度は、鉄スクラップ価格動向により損益に大きな影響が出る可能性があり、留意しておく必要がある。

Q. Ovakoの需要動向について教えてほしい。新型コロナウイルス感染症や半導体不足による自動車減産の影響などを含めて、今後の需要環境をどう見ているか。

A. Ovakoとは、欧州の需要動向について随時会話しているが、足元は堅調であると聞いている。Ovakoはサプライチェーンが長く在庫積み増しの注文が入っていること、またコンテナフレートが高くなっているため、EU域外からの流入が減り、Ovakoへの引き合いが強くなっていることが要因とのことである。

Q. 関係会社預け金の残高が多くなっている。余剰があるのであれば、配当すべきではないのか。

A. 預け金は決済用の手元資金であり、販売数量の減少に伴い一時的に残高が多くなっているが、今後、設備代金の支払や販売数量回復局面における運転資金増に充てるため、残高は減っていく見込み。配当は、配当性向に基づき実施している。

Q. 当社単体の需要の見方について教えてほしい。自動車、建設機械、産業機械と需要分野別の見通しはどう見ているか。

A. 自動車は、在庫積み増しがほぼ完了し、今後は実需による動きになるとみている。建設機械は、サプライチェーンが長いため在庫積み増しの部分が大きく急速に回復している。産業機械は、設備投資はまだ盛り上がってきていないが、半導体関連、農業機械、風力発電、鉄道、ロボット関連等で回復の動きが見られる。今後については、自動車の一服感はあるものの、建設機械、産業機械は伸びてくると思われるため、強い基調が続くとみている。

Q. 鉄スクラップ価格は、中国のスクラップ輸入再開の動きなどによって、高止まりする可能性がある。販売価格への転嫁は可能なのか。サーチャージ制の導入割合を含めて教えてほしい。

A. 中国の鉄スクラップ輸入再開の動きや、比較的環境負荷の少ない電炉の生産が増えるといった思惑もあり、鉄スクラップ価格は、従前より高い水準になる可能性がある。当社の鉄スクラップサーチャージの導入割合は約8割であり、うち自動連動するものが7割、鉄スクラップ価格に連動するが最後は交渉が入る準サーチャージ制が1割となっている。残り2割のうち、1割は高合金・ステンレスであり、Ni等の合金鉄価格に連動する。残り1割の店売り、小口、スポット、海外向けの一部が個別交渉となっている。

Q. 第二棒線工場の投資の意義について改めて教えてほしい。どのような需要への対応が可能になったのか。

A. EV化の動きが進む中、電費の向上、軽量化が求められ、部品の小型化・小径化へのニーズが高まっている。部品が小型化・小径化しても同じ強度が必要になるが、当社は、本投資において新しい圧延機RSBを導入。高圧下での作り込みによって、高い品質の棒鋼が製造できる。

以上

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されまことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。